

中部船用工業会 令和2年 新年賀詞交歓会

日 時 令和2年1月20日(月) 16:40~18:30

場 所 名古屋港湾会館 3階 第3会議室

出席者 会 員 20名

ご来賓 中部運輸局次長 中島 晋 様

海事振興部長 吉村 剛 様

同部 船舶産業課長 松井 裕 様

海上安全環境部長 市川 政文 様

同部 海事保安・事故対策調整官 加藤 耕司 様

同部 船舶安全環境課長 宮城 裕明 様

(一社)日本モーターボート競走会東海支局 事業部部長 江崎 二三浩 様

概 要

事務局から、本日は昨年秋 黄綬褒章を受章された、当会 副会長である株式会社 太田鉄工 太田義久 会長の褒章受章のお祝いも兼ねさせていただいている旨の報告があり開催された。

開会にあたり、副会長の株式会社 赤阪鐵工所 杉本 会長から太田副会長の黄綬褒章受章へのお祝いと、平素、ご指導を賜っている中部運輸局 中島次長をはじめ、ご臨席の皆様へのお礼と会員皆様の日頃からのご協力への感謝が述べられ、「我々業界においては、外航船分野は公的支援等を背景とした韓国・中国造船業による安値受注等が影響し、船用機器メーカーに高いハードルとなっている。また、内航船分野は東京オリンピック・パラリンピック関連の輸送需要も一段落し、輸送需要は横ばいと見られる。

国際的な環境規制等、社会的な要請への対応や、労働人口減少社会における優秀な技術者・技能者の確保・育成への対応等、業界として取り組む課題は数多くある。

こうした課題を克服するためにも、中部運輸局様をはじめ関係業界の皆様方のご指導・ご支援を引き続きお願いします。」との挨拶があった。



ご来賓を代表して、中部運輸局 中島次長から、「我が国の造船・船用工業等の海事産業は経済的で信頼性の高い船舶を海運業に安定的に供給し、地域経済・雇用を支える等、海洋立国としての基盤を長年にわたり提供してきた。

他方、中韓造船業の台頭や專業系造船所の建造量拡大など、市場環境の変化や業界構造の変化、技術革新に伴う情報通信技術等の分野への技術基盤のシフトなど、業界を取り巻く状況は大きく変化しつつある。

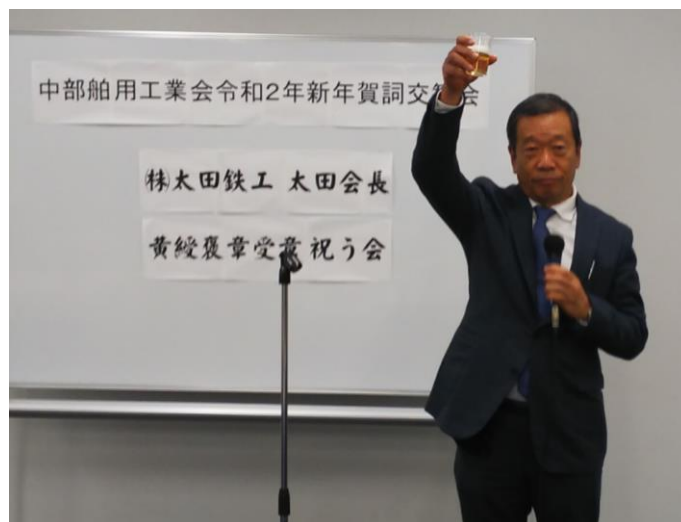
このような状況の中、我が国、造船・船用工業が、引き続き我が国に欠かせない産業として、地域貢献を含む経済成長や安全保障に貢献し続けるための方策について、総合的に検討する「海事産業将来像検討会」を令和元年6月海事局に設置し、必要な施策について検討を行っている。

また、いわゆる就職氷河期世代（現在、30代半ばから40代半ば）が、現在も不本意ながら不安定な仕事に就いている、無業の状態にあるなど、様々な課題に直面している。

これらの課題への対応は、我が国の将来に関わる重要な課題であり、政府一丸となって支援に取り組む体制を整備するとともに、「就職氷河期世代支援に関する行動計画」を策定し、令和元年度補正予算及び令和2年度予算案において、支援の強化・加速化を図るための支援策が盛り込まれている。」とのご挨拶をいただいた。



引き続き、当会 副会長の株式会社 鳥羽ヤンマー 江崎 社長による、乾杯の音頭で宴が開始された。



黄綬褒章を受章された、株式会社 太田鉄工 太田 会長に、当会 小松 会長からお祝いの記念品が贈られたのち、太田 会長から「黄綬褒章受章の栄に浴し、身に余る光栄であり感慨無量であります。これもひとえに中部運輸局、中部船用工業会をはじめ業界皆様のご指導・ご支援の賜物であるとともに、社員一同の支えがあってこそと感謝申し上げます。この度の受章を心の支えとして、今後も一層精進いたす所存でございますので、引き続き皆様方のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。」とのお礼の挨拶があった。



終始なごやかな雰囲気の中、当会 副会長の大洋電機 株式会社 熊崎 副社長の中締めで散会となりましたが、行政ご当局はじめ関係者の皆様には、情報交換・懇親を深められた場となったことと思います。

